

## 令和４年度 共生社会を実現する教育研究セミナー 実施要項

### 1 目 的

特別支援学校や小・中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒は、令和元年度は平成２５年度比で３５％増となっており、小・中・高等学校の通常の学級においても、通級による指導を受けている児童生徒が増加している。また、平成２４年の文部科学省の調査においては、小・中学校の通常の学級に６．５％程度の割合で発達障害の可能性のある児童生徒が在籍しているという結果が出ている。高等学校においても、中学校から引き続き通級による指導を必要とする生徒や、学習上や生活上で困難さのある生徒等も在籍していることから、平成３０年度には通級による指導が制度化されてきた。

そこで本セミナーでは、「令和の日本型学校教育の構築」を目指して、今後の特別支援教育の在り方を確認するとともに、全ての教師に求められる障害の特性等に関する理解と指導方法を工夫できる力を伸ばす。また、通常の学級における特別支援教育に関する基礎的な知識、合理的配慮に関する理解等を学ぶことで指導力の向上を図る。

2 主 催 独立行政法人教職員支援機構、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

3 受講期間 令和４年１２月８日（木）～令和４年１２月９日（金）

4 定 員 約２００名

5 実施方法 Zoom ミーティングを利用した同時双方向通信によるオンラインセミナー

6 配信元 独立行政法人教職員支援機構 つくば本部  
〒305-0802 茨城県つくば市立原３番地

### 7 受講者

#### （１）受講資格

- ①小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び中等教育学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭等
- ②都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準ずる者
- ③教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）

#### （２）推薦手続

推薦期限は令和４年１１月７日（月）とする。

各都道府県・指定都市教育委員会、各都道府県知事部局、各国公立大学法人、独立行政法人国立青少年教育振興機構及び教職大学院を置く各大学においては、「研修システム」により推薦を行う。

各中核市教育委員会においては、[様式1]により都道府県教育委員会に連絡し、都道府県教育委員会が「研修システム」により推薦を行う。

### (3) 受講者の決定

各都道府県・指定都市教育委員会等からの推薦に基づき、教職員支援機構が決定し通知する。（定員を大幅に超過する場合は、受講者数を調整する場合がある）

## 8 内 容 別紙「日程表」のとおりとする。

## 9 そ の 他

- (1) Web 会議サービス「Zoom ミーティング」((株) Zoom ビデオコミュニケーションズ)を用いて同時双方向通信を行う。受講に当たっては、当該ソフトウェアのインストールや安定したインターネット通信環境の確保のほか、相互に音声・映像をやりとりする協議等ができるよう、音声マイク・Web カメラ等の必要機器を備えた端末を、1人1台準備すること。

- (2) Web 会議への参加方法等の詳細については、受講者決定時に通知する。

令和4年度共生社会を実現する教育研究セミナー 日程表

	8:40	9:00	9:20	10:20	10:30	12:00	13:00	15:10	15:20	16:10	16:20
1日目	受付	開 会 行 事	9:20～10:20(60分) 講義(1)	休 憩	10:30～12:00(90分) 講義・演習(2)	昼 休 憩	13:00～15:10(130分) ※10分程度の休憩を含む 講義・演習(3)	休 憩	15:20～16:10(50分) 演習(4)	庶 務 連 絡	
			『令和の日本型学校教育』の構築を 目指して～新時代の特別支援教育 のあり方について～		特別支援教育体制の構築		通常の学級における指導・支援の充実に向けて		リフレクション		
			【目的】 現状と課題、また答申の趣旨の理 解を深める ※「障害のある子供の教育支援の 手引き」を含む		【目的】 学校全体で行うための特別支援教育体制の構築に ついて、その方法や運営を考える ※合理的配慮を含む		【目的】 ユニバーサルデザインの学級経営、特別支援学 級や通級指導教室との連携の理解を深める ※ケース会議、実態把握を含む		【目的】 研修の学びを踏まえ自身の実 践を省察し、意見交換をするこ とで、共生社会の実現について 探る		
2日目	受付	8:50～10:20(90分) 講義・演習(5)	休 憩	10:30～12:00(90分) 事例発表(6)	昼 休 憩	13:00～16:10(190分)※10分程度の休憩を含む 演習(7)			開 会 行 事		
		応用行動分析に基づいた指導・支援		実践から学ぶ指導・支援の在り方		各地域における現状と課題の共有 ～これまでの研修の学びを通して～					
		【目的】 児童生徒の困難さに応じた指導・支援の在 り方について、一つの手法の理解を図る		【目的】 応用行動分析を取り入れ、指導に生かしている小・ 中・高における実践から学ぶ		【目的】 現状と課題を記入した事前課題を持ち寄り、情報を交流するとともに、研修の学びを生 かして実践に生かす					